

そこには生きる人々よ

美崎理恵

◆登場人物

有島典介（ありしまのりすけ）

桑田英朗（くわたひでろう）

佐伯世々子（さえきよよこ）

町田徹（まちだとおる）

七瀬月（ななせつき）

久慈達也（くじたつや）

椋木富士子（むくのき、ふじこ）

城市アサ（じょういちあさ）

《時》現代。

《場所》日ノ出荘。コンクリートむき出しのかなり古い建物。その共同の場。ホール。

【】

日ノ出荘の住人が集まるリビング。大きな古いテーブルが一つ。その周りに椅子が数脚散らばっている。部屋の隅には黒電話と椅子がある。ここは通常、七瀬月の定位置となっている。上手に行くと玄関。下手に行くと入居者たちの部屋や共同スペース（台所、トイレ、洗面所、風呂など）がある。

朝。佐伯世々子がスマホを見ている。ただ見ているだけである。気持ちは全然違うところにある。月は写真を見ながら黒電話で話をしている。テーブルでは町田徹が伏している。その傍には新聞紙。町田、かなり疲れている。

月

念。執念の念。怨念の念。念じるの念。念が渦巻いてるんです。ええ、生きてます。生靈ですね。ええ、ええ。（と相槌続く）

（ボソッと）そんなことがありますかって……。

（町田に気づき）あれ？ いつ帰って来た？

五分前からここにいます。

町田
世々子 気がつかなかつた、ごめん。

町田 別にいいですよ。

世々子 どうした？ 何かあつた？

町田 いつものことですよ。酔っ払いがぐだぐだぐだ……。

世々子 夜のシフトはねえ……。

月 間違いなく生靈です。念です。ええ。そうですね。夜のシフトは、ええ。（と相槌続く）

世々子 向こうも夜のシフトの話してるよ。

月 そうですね、刺激しないように。念ですかからコントロールできないんです。
しぶといですよ、念は。

町田 何言つてんだか。

月 ええ。ではお気をつけください。また何かございましたら。はい、お振り込み、よろしくお願ひ致します。(電話を切る)

世々子 夜の仕事はどうした?

月 出るんだって。(と言いながら町田の元へ)

世々子 (呟く) いいなあ……。

月 町田。

月、町田に新聞代を渡す。町田、新聞を月に渡す。

月 眠たいならベッドでおやすみ。

月 疲れてて動けません……。

月 でも人が働いてる時に寝てるんだから――

月 町田 人が寝てる時に働いてますから!だから疲れてるんですから!

月 町田 そうね。おやすみ。

月 (月の真似) 生靈です。間違いなく生靈です。(月に)でもね、世の中は形あるものの集まりですから。

町田、部屋のある下手へと引っ込む。

世々子 おやすみー。

月 長くないかもね。

世々子 え!!

月 辞めるよ。

世々子 ああ、仕事。びっくりした……。町田までいなくなるのかと思ったよ。

月 出てほしい?

世々子 ん?
月 さつき、言つてた。いいなあって。

世々子 いいなあ?

月 うん。出るんだってって言つたら、いいなあって。

世々子 私が?

月 うん。

世々子 そうなんだ……。信じられないんだよね。

月 見つかってないからね。

月、新聞を広げて見る。

世々子 月さん、最近、新聞よく読んでるね。

月 今日の運勢パクツてるの。

世々子 そうなの!!

派手な服を着た棕木富士子が下手から出て来る。追いかけて、久慈達也。

久慈 やめときなって。

富士子 どうして?

久慈 どうしてって聞く?

富士子 聞くわよ。意味わかんないわよ。なんで久慈に止められなきやなんないのよ? あんたってホント邪魔ばつかするわよね。

久慈 僕が?

富士子 あなたよ。今、私、誰と喋つてんのよ。くだらないこと聞かないでくれる? どした?

久慈 いや富士子さんがさあ、

富士子 いやからデートなの。

世々子 え、こないだ別れたんじやなかつたつけ?

富士子 いつの話してるのよ。

久慈 それより相手だよ相手、誰だと思う?

世々子 知つてる人?

久慈 知つてるも何も、リョウちゃん。

世々子 リョウちゃん!

月 ほら、みんな反対だよ。

久慈 どうして反対するかしら。

富士子 どうしてって聞く? お金だまし取られて自殺未遂したの誰よ? 風邪

久慈 薬大量に飲んで大酒食らつて、ベッドで冷たくなりかけてたの誰よ?

富士子 あれね、今だから言うけど、久慈が助けるから。

久慈 は?

富士子 私は、リョウちゃんに助けてほしかったの。それなのに久慈が救急車呼ぶから。

久慈 僕が呼ばなかつたら富士子さん死んでたよ?

富士子 呼ばなかつたらリョウちゃんが助けに来てくれました。そしたら私たち、別れてしまませんでした。

世々子 あのリョウちゃんが助けに来るわけがない。

富士子 あなたたちはいつもそうやってリョウちゃんを悪く言う。

世々子 リョウちゃんに何回騙された?

富士子 彼には彼の事情があるの。

月 富士子さん、あなた真っ黒。一筋の光も点も見えない。

富士子 あら、残念。月さん、外れちゃつたあ。私ね、結婚するの。

久慈 誰と!

富士子 あんた今、私と誰の話してたのよ!

久慈

リョウちゃんど!?

富士子 というわけで私、こんなしみつたれた場所とは間もなくおさらばします。

じゃあね、行つて来まーす。

富士子、上手へと去る。

久慈 マジで?.

世々子 何とかならないかなあ、あの性格。

月 仕方ない。あれが彼女の生き方なんだから。

世々子 あれ、生き方?

久慈 やっぱ俺、止めて来るわ。

世々子 は?

久慈 だつて放つといたらまただよ? 薬飲んで酒飲んで、俺また救急車呼んで、でまた言われるんだよ。久慈が救急車呼ぶから。そりやないでしょ!

また俺のせい? イヤだよ。止めて来る。

久慈、富士子を追いかけて上手へ去る。

世々子 久慈ってさあ、自分の人生、あれぐらい本気で悩めばいいのにね。いつも人の人生ばっか悩んでる。

月 それが久慈の生き方なんじやない?

世々子 あれも生き方かあ……。生き方つて何?

月 生きる方法?

世々子 生きる方法。難しいこと言うね。

久慈が上手から戻つて来る。

世々子 どした?

久慈 来た。

世々子 何が。

久慈 城市。誰か連れてる。

世々子 誰?

大家、城市アサが上手から来る。一緒に桑田英朗も来る。スーツ姿だがよれよれで乱れている。

久慈 おはようございます。

城市 おはよう。

世々子・月 (それぞれ) おはようございます。

城市 (桑田に) ここだよ。

桑田、不安そうに部屋を見回す。

なんか……空氣淀んでますね。

古いし、地下だからね。

あの……

桑田 あ、桑田英朗と言います。よろしくお願ひします。

世々子 よろしく？まさか……（城市を見る）

城市 ああ。

世々子 私、家賃払うって言いましたよね？

城市 いつまで払うつもりだい？

世々子 しばらくは。

城市 しばらくっていつまで？何のために？

世々子 それは……。

久慈 余韻、かな？（世々子、久慈を睨む）

城市 何が余韻だよ。もうすぐ四十九日だよ？ いつまでもネチネチ思つてゐる

世々子 んじやないよ。

世々子 ネチネチって――

城市 あの子だつて成仏できないだろ。極楽へ行かせてやりな。行けるといいけどね。

久慈 あいつ、人生で迷子になつてたからなあ。あの世へ行くにも迷子になるかもなあ。

城市 あんたは人の心配より自分の心配をしな。（手をあげて）はい。

城市 なんだい。

月 部屋にはまだテンスケの物がそのままあります。

城市 使えてちょうどいいじゃないか。

久慈 死くなつた人間が使つてた物を使いたくないよね？

城市 僕は別に気にしません。

久慈 ずっとじゃないんだよ。ちょっと世間と距離を置きたいんだけなんだよ。

城市 （世々子に）家賃は私が払います。

桑田 お金はあるの？

久慈 あります。

桑田 だつたらホテルに泊まればいいじゃない？

久慈 色々あるんだよ。あんたたちもそつただらう？

（桑田に）俺たちみんな、行き倒れ寸前のところを城市に拾われてきたの。

久慈 威張つて言うんじゃないよ。

久慈 感謝してるんですよ。

久慈 だつたらさつさと出て行きな。それが私への恩返しだよ。

久慈 と言わてもねえ。

久慈 久慈、あんた最近、職安行つてるかい？

久慈 職安なんて古い。何十年前の言葉ですよ？ 今はハローワークだし、行か

なくとも求人雑誌やネットでちょちょつと——何でもいいよ。ちゃんと働きな。

久慈 城市 何でもいいよ。ちゃんと働きな。

（世々子に）傳さる。

世々子 働いてるわよ。

久慈（月に） 僅（さう）まな

月。あんたも奇妙な商売だけど、電話の前ばかりにいないで、たまには外に出て新鮮な空気を吸いな。

月 城市
はい。
あと町田っていうコンビニ男と、さつきこに来る途中で出会った派手な女がいただろ?

あ
あ

城市 あれもごこの住人だから ま
はい。アリバ こうございます。

はい。ありがとうございます。
あんたたち、頼んだよ。

久慈・月 (それぞれに) はい。(世々子は納得せず返事をしな

あ
そ
う
た
昨
田
田
部
ち
や
ん
見
た
よ

前のく。一。武食。一。の間。

試食？

（上手に去りながら）何してたんだか。あればなら電話してやりな。何かあ

二
た
の

七
八
二
七

城市、上手へと去る。久慈、すぐに電話をする。桑田はじろじろ部屋の中を

見一夢

月
部

だろ。

世々子　いい家の息子に気に入られちゃってね、二年前、結婚して出て行つたの。

h?

世々子とし大

番号変えた?

(再度、電話しながら

ちょっと出て来るわ。

久慈、上手へと去る。

世々子 ほら、まだよ。人のことにはすぐ首突つ込む。

月 あれぐらい他人のことを考えるようにならないとね。

世々子 え?

桑田 なんか……

世々子、月、桑田を見る。

桑田 涙えないところだな……

世々子、月、啞然と桑田を見る。

桑田 私の部屋は?

月、下手を指差す。桑田、下手へと去る。

世々子 今、涙ないとこだつて言つた?

月 仕方ない。事実だから。

世々子 突然やつて来て何……。

桑田が下手から顔をのぞかせる。

桑田 どの部屋ですか?

月 (世々子に) 忘れるいいチャンスかもよ?

月、桑田と一緒に下手へと去る。

世々子 忘れたかないよ……。

【2】

二日後の朝。ホール。久慈、求人雑誌を見ている。月は黒電話で電話をしている。

舞台が広ければ、別空間として有島典介が時々現れてもよい。舞台上を走つて移動している。上手から下手へ、下手から上手へ。

月 はい……はい……。(と相槌が続く)

町田が上手から来る。疲れている。

久慈 お帰り。お、今日も疲れてるね。
町田 僕、あのコンビニ辞めます。
久慈 え、辞めるの?

は
い！

この間、お腹痛くなつたじやないですか？

ああ、よかつたねあれ、治つて

ニンビニは僕の心酔をしてくれませんでしカ
コノジニには無理ジニ。

酔っ払いに絡まれた時も助けてくれませんでした。僕はこんなにコンビ

「の」を思つてゐるに……

舌ぬでとこすんの?

またコンビニ?
ハハ、俺にはわかんないよ。

僕にもわかりません、パチンコ。

ハチン二はわかりやすいでしょ。君の定義でいいければ目の前に存在して、ハミー。別にダーリン、アーリン、モーリン、エリス、色合

好きになつてるよ。

そうですね。

定義とかそういうことじゃなくて、バチン

木がないんです
ま、俺もう前の頃も中、
つかないからね

そうですね。

々子が下手から来る
典介の服を着ている

あれ？ それテシスケさんの服じゃ……。

桑田が着てたから脱がせた。

でも何でも使えるって、城市が言つたんですね。

お前はハハの?

私はいいの。（久慈が求人雑誌を見ていることに気づいて）あれ？ 働く

の
!?

まあち、一とれ

昨日の夜ね、駅前のスーパーで見つけたんだよ、田部ちゃん。

田部ちゃん！

会
た
の
（

(町田に) この前、城市が見たって言つてたの。(久慈に) 元氣だつた?

それがさあ、旦那の会社、倒産したんだって、

町田

携帯も解約して、だからつながらなかつたんだな。

携帯も解約して、だからつながらなかつたんだな。

町田 玉の輿だつてみんなで喜んだのに……。

月 はい。わかりました。では。（電話を切つて町田の元へ）

町田 今どうしてるんですか？

久慈 一人でどこかアパートにいるんだって。やつれちゃつてさあ。食べていくのがやつとみたい。

世々子 えー……。

久慈 田部ちゃん、聞くんだよ俺に。久慈さん、私、みんな失っちゃつた。これからどうやって生きて行けばいい？つて。

世々子 そんなにひどい状況なんですか？

町田 うん。もう涙目ウルウルで、俺も辛かつたよ。でも俺だつて金ないし、人脈ないし、無責任に「大丈夫」なんて言えないだろ？ 部屋でも空いてりや戻つておいでって言えるけど、今ダブつてるんだもん。だから俺、笑いで田部ちゃんの心をほぐそうと思ったの。で、言つたの。「そうだなあ：：銀行強盗でもしてみたら？」

世々子 何それ。

久慈 （笑顔で）田部ちゃん、笑つてた。俺の一言で心、和んだんだな。

町田 意味わかんないです。

町田 わかんなくてもいいんだよ。田部ちゃんに笑顔が戻つてきたんだから。笑うしかなかつたんじやない？

月 いや、あの笑顔は本物だった。俺、久しぶりに生きててよかつたって思つたよ。人のためになるつていいもんだな。

町田。

月、町田に新聞代を渡し、新聞を受け取る。

町田 月さん、僕、コンビニ辞めます。

月・世々子 あら。

町田 だから新聞、これからは自分で買つてください。

月 転職？

久慈 またコンビニだけどね。

世々子 また？

町田 新たな一步です。

月 それ大事。

町田 ですよね。

月 新聞、朝一でなくていから続けてお願ひできる？

町田 いいんですけど……。

月 私も新たな一步を歩くことになつた。ちっちゃな町なの。

世々子 ん？

久慈 出馬？

いやいやいやいやいや……。

自分でもわからなくなってるんだよ、この能力が本物かどうか。当たるも八卦、当たらぬも八卦の世界だから……。とにかく町長になる。(町田に)新ヒゲー^{ハゲー}。

町田　ま、そうではありますけど……。

一同
え?

典介が上手から入つて来る。

世々子・久慈・町田・月
典介 やつと着いたー。ええっ！

やつと着いたー。

やつと着いたー。

世々子、久慈、町田、月、茫然と典介を見る。

典介 おー、月ー。（月にハグする） ただいまー。

典介 町田一。（町田にハグする）

典介
久慈川。
(久慈にハグする)

世々子 テンスケ？ 本当にテンスケ？

世々子 テンスケ……テンスケだ……テンスケー。（典介に抱きつく）

新編 金瓶梅 卷之三

典介元何?

月、じつと典介に見て いる。

(用に) こいつらどうした?

月 典介
今までどこにいたの?
どこに?

何してた？

どうやつて?

どこから帰ってきて来たの？

どこから？ どこからた
どこから覚えてる？ 憶えてない

典介 あー、気がついたら走ってた。

月 どこを？

典介 どき？ どきつて……。ああ、あれかな。ほら、よくあるだろ。犬を遠く離れた所に置き去りにしてもちゃんと戻つて来るっていう、そういう感じ？

世々子 本能？

典介 そ、本能だよ、俺の。

月 （笑つて） 久慈、犬かよ！

典介 （笑つて） 犬じゃねえよ！

月 テンスケが川で流されたのを見たつて人たちがいる。渓谷で溺れている子供を助けようとして川に飛び込んで、子供は助かつたけど、テンスケは流された。

典介 でも俺、流されてないじやん。

月 だからみんなびっくりしてるんだよ！

典介 ちゃんと説明して。

月 え、俺が帰つて来た、それで十分だろ？ 何か問題ある？

典介 ない！

典介 それ以上何か必要？

月 ない！

桑田 月をのぞいて一同、笑う。

桑田 桑田が下手から出て来る。

久慈 ん？

桑田 誰？

桑田 桑田です。

久慈 クワタ？

典介 あ、テンスケ——

桑田 テンスケ？ テンスケさん!! 死んだんじゃ——

典介 おい！ 気安く呼ぶな。俺の名前はのりすけ。辞典の「テン」に介護の「カイ」。テンスケって呼んでいいのは日ノ出荘の奴らだけだ。

桑田 私、住人です！ ここ。

世々子 あ、テンスケ、桑田さんはね、城市がその……テンスケの部屋をね……。

典介 僕の部屋？

世々子 うん。桑田さんに……。

典介 何で！

久慈 だから死んだと思つてんだよ、みんな。
典介 生きてるだろ！

桑田 どうしましよう。私、今テンスケ——
典介 のりすけ！

桑田 のりすけさんの部屋使つてるんですけど……。のりすけさんの物も好き

典介 に使つていいって言われて——

ええっ!!

世々子 困るわよね？ 桑田さんには申し訳ないんだけど——

まあいいや。

は？

いい。

世々子 いいの？

いい。

典介 いい。あれこれ言つてる時間がもつたいない。その代わり、俺の邪魔をするな。

久慈 何の邪魔？

富士子が上手から来る。

富士子 ただい——テンスケ！

典介 あ、富士子ちゃん！（富士子にハグする）

富士子 生きてたの？！

典介 何だよ富士子ちゃんまで。

富士子 え、本物なの？

典介 決まってるだろ。

富士子 うそ！ 夢みたい！

典介 夢じやない！

富士子・典介 ハハハハ！

富士子 ねえ、テンスケ、聞いて聞いて。またみんなして私をいじめるのよ？ リ

久慈 ヨウちゃんはだめだつて。リョウちゃんとまたより戻したんだよ。

富士子 違うのよテンスケ。今だから白状するけどあれね、リョウちゃんが助けに

来るはずだったのに久慈が救急車呼ぶから、

久慈 ほらまた俺だよ。

富士子 それよりリョウちゃん、今大変なの。お父さんの借金肩代わりして、返さ

ないと殺されちゃうの。

世々子 そりや大変だあ大変だあ。

富士子 テンスケ、どうしたらしいと思う？

久慈 あのね、富士子さんは悩まなくていいの。富士子さんが代わりに借金して

あげる必要もないの。

富士子 あんたには聞いてない。テンスケに聞いてるの。

典介 んだ。 富士子ちゃん、相変わらず大変なんだな。でも俺、今それどころじゃない

え？

富士子 邪魔しないでくれる？

何の？

典介 僕、芝居を書くんだ。

富士子

典介

富士子

一同
典介

は？

書く。書くために戻って来たんだ。書ける喜び！ イツキイツカイで書く！（上手へと向かう）

富士子 ちょっとテンスケ？

富士子、典介について行こうとする。

典介

リョウちゃんの話聞いてくれないの？

だからあ、邪魔するなって！ 僕の部屋に近づくな！
私、家賃払ってます！（典介について行こうとする）

俺の部屋だ！

典介 桑田 桑田

でもテンスケさん——

のりすけと呼べ！

桑田 桑田 富士子

のりすけ、どうしたの！？

三人、部屋に去つて行く。

町田 富士子さんまでのりすけになっちゃいましたよ。

【3】

翌日。ホール。典介がテーブルで原稿用紙に向かって書いている。その横に桑田。離れた所に世々子と久慈と月と町田と富士子。桑田と典介の様子を見ないふりをしながら見ている。典介、桑田の質問に書きながら答える。

桑田 桑田 典介 桑田 典介 桑田 典介 桑田 典介 桑田 典介 桑田 典介

パソコン使わないんですか？

使わない。

持つてるんですか？

持つてない。

便利ですよ？ 買いましょうよ。

すっからかん。

旅には出るのに？

旅に出るからすっからかん。

旅つてそんなにいいですか？

日常から抜け出したい時つてあるだろ。

ありますね……。テンスケさんの——

のりすけ！

のりすけさんの日常はどんな日常なんですか？

桑田 桑田 典介 桑田 典介 桑田 典介 桑田 典介 桑田 典介 桑田 典介

桑田には関係ない。

知りたいんです。

(無視して書く)

桑田典介

教えてくれるまで私は聞きますよ。のりすけさんの日常はどんな日常なんですか？ のりすけさんの日常はどんな日常なんですか？ のりすけさんは――

(イライラが募り) ベルトコンベアーに載つて!

はい！

箱が流れてくるわけよ、向こうから。それに蓋をするんだ。

蓋
?

典介

毎日朝九時から夕方六時までずーっと。それをずっと続けてたらふと思
うわけよ。俺、何してんだ？ ほかに何かすることあんじゃねーの？ 俺、
一生こうして蓋してんのか？ もうそう思い始めたらダメ。仕事辞めて、
あるだけの金持つて旅に出る。はい。(書く)

桑田

三

ね。なかなか興味深いです。で、何で急に芝居を書く気になつたんですか?

（田舎へ戻して）お母さん、どうしたの？

(「」) 田代君、(「」) 知りたし、
ねー。(一回おひな祭りで舞ふぞ見ゆ)

（一同おなじ一興行を見た）
……見たいにぎ。（自分の世界に入つて行く）

可見

何を、
体育馆。高校の時、見に風景二三つ、同じ風景二三つ。

高校の時？

高校の時(2)

巡回公演か
ウノスバ流

中ノノガ流

巡回公演が来たんだ。「全校生徒は体育館に集合しなさい」って校内アナウンスが流れて、俺、全然興味なかつたけど、勉強よりいっかって思つて体育館に行つたんだ。そしたら、あの殺風景で味気ない体育館が宇宙みたくなりになつてて、星を旅する物語？ そんな話がばあ————って！ 内容はもう忘れちまつたけど、ばあ————って！ 俺、なんかすげえ感動して、興奮のシャワー浴びて面白れ——つて。で、気づいたんだ。世界は一つじやない。今俺が生きてるこのどうしようもない現実の世界と、何でも夢見ていい世界とがあつて、夢見ていい世界では俺が自由に生きていくことができる……。これってすごくないか？ すぐえだろ？ 俺、それに気づいた瞬間、その感動引っ提げて演劇部に走つたわ！ そしたら

別空間に城市と部員たちがいる。部員は世々子、久慈、月、町田、富士子が演じる。

城市典介 今度の大会で芝居書く人。
みんなに聞いてたんだ。はーい！

典介、手を挙げながら部員たちの中に加わる。

誰だい？

有島典介（のりすけ）です。辞典の「てん」に介護の「かい」。ありしまのりすけ。でも、のりすけて顔じやないねえ……。

よし、テシスケにしよう。

テンスケ?

テンスケ、書きたいのかい？

書
い
二
は
う
の
、
、
、

ありません！ でも書きた

そんなに簡単に書けないよ？

でも書きたいんですね！

書にそろかい?

書評

はい！

みんな、いいかい？

いいです！

お頼みします！

はい！ 嬉しかつ

楽しくて楽しくていいじゃんいいじゃん！

東國用氏二書

四
原和田

でもそのうち。

そのうち?

どうしたテシスカ?

どうした俺？

おいおいおー！

ナハいナハいナハイ

書ナシ、……書ナシ

書けない……書けない！ それからはもう地獄。書けなくてさあ、ホント書けなくてさあ。みんなには順調に書いてまーす、とかなんとか言いながらホント書けなくてさあ。で、城市に言つたわけ。

典介、城市と部員たちの元へ。

書けません！

テンスケ、あんた書くって言つたんだからね。責任持つて書きな。

でも書けなくてさあ。

投げ出すんじゃないよ。

でも書けなくてさあ。

逃げるんじゃないよ。

でも書けなくてさあ。ごめんなさい！

典介、走つて逃げる。

城市十部員たち テンスケ！

典介 （走つて逃げながら）俺、途中で放り投げちまつた。

「テンスケ！」と追いかけて来る部員たちを煙に巻いて逃げる典介。

典介 その後、学校に行くのイヤになつて退学。

別空間にたむろしている不良たち。不良たちは世々子、久慈、月、町田、富士子が演じる。典介、彼らの中に入つて座り込む。

典介 悪い奴らとつるむようになつて城市ともそれつきり。のはずだったのに、
5年前。

城市がやつて来る。

テンスケ！

城市！ 道でばったり出会つて、
あんた、こんなところで何してるんだい！（不良たち、逃げて行く）

はは、何してるんでしきう。

こつちが質問してるんだよ。

俺も質問してんだよ。

久しぶりに会つたのに何だいその態度は。

こんな人間になつちまつたよ。

こんなの意味がわからないねえ。

逃げてばかりの人生よ。

若いモンが何言つてんだい。

俺も年取つたよ。

笑わせるんじゃないよ青二才が。

（城市をジッと見て）城市、相変わらずだな。

人の顔を見る暇があるなら、さっさと立つてついて来な。

典介、立ち上がる。

俺をどこに連れて行く気だ。天国か、地獄か？

日ノ出莊？

シェアハウスだよ。

この世だよ。

この世が一番怖ろしい。

ああ、でも生きている

家賃、よその四分の一だよ。

四分の一！

それくらいたい。

じや遠慮なく

悪さばつかで

城市のかへ、言ふやうつて、

テンスケ、あの時のあの芝居、書けたかい？　わたしや今でも待ってるか

書けるわけないじゃん！
俺にはもうあの頃の感動はないんだから。
で

も城市は俺の顔を見るたびに聞くんだ。書けたかい？ 書けたかい？

いい加洞にしてよ！ 僕は書けないんだよ！ もうあの頃の僕じゃない
俺は、もうつづいて逃げて。そこには、あの金コバを見し

んだ。巡回公演……。高校の時と全く同じだった……。あん時の感動がほ

典作書志

あのテンスケさん

のりすけさん、失礼

ない。

本当に書けるんですか？

イツキイツカイ?

(胸を叩いて) ここで書く。(典介は書き続ける)

あの……お忙しいところすみません。ちょっとどうしてもお聞きしたいんですけど、生きる先が見えないって怖くないんですか？ お金なくて不安じゃないんですか？ どんな感じなんですか？ すっからかんにな

るって。どうして家賃滞納して旅になんか出られるんですか？

桑田典介

典
介

四

桑田

日の出の見えない日ノ出莊……。
テンスケさん。

私の人生に

私の人生にもう、日の出はないかもしません……。（典介は無視して書き続ける）私は一流企業のお客様対応部門、苦情係で働いていました。そこはいつも、一つ言えば十にも百にも千にもなって返ってくるクレームの嵐が吹き荒れていました。そのクレームはいつも私の耳から咎へと上

典
八

一同、驚いて典介を見る。

典介

書けねーだろ！ どうして書かせてくれねーんだよ！ だいたいに俺は
あんたが俺の部屋であれこれ聞いてきてうるさいからこっちに来たんだ
ぞ！ それなのに何でまた一緒にいんだよ！ 書かせろ！ 邪魔すん
な！

典介、上手へと入つて行く。
一同、啞然と見送る。

一同 哑然と見送る

同日。原稿用紙に向かっている典介が浮かび上がる。その周りに世々子、久慈、月、町田、富士子、桑田。富士子、典介の元へ。

富士子 テンスケ、リョウちゃんと結婚しようとと思うの。テンスケはどう思う？

典介（ひたすら書く）

四

富士子 みんなは反対するんだけど、テンスケだけは賛成してくれるよね？

典介 (ひたすら書く)

富士子 ねえ、テンスケ。

典介 (富士子を見て) 邪魔するな。 (書く)

富士子 ……

ひたすら書く典介。富士子は去り、久慈が来る。

久慈 テンスケ、ラーメン食べに行こう。

(ひたすら書く)

久慈 お前の好きな満腹亭だよ。

(ひたすら書く)

久慈 チャーシュー、一枚やるよ。

(久慈を見て) 自分で食べろ。

久慈 え……

ひたすら書く典介。久慈が去り、町田が来る。

町田 テンスケさん。僕、コンビニ替わったんです。

(ひたすら書く)

町田 コンビニも昔に比べたら仕事が増えちゃって……俺も自分探しの旅でもしてみようかなあ……なんて考てるんですけど……

(ひたすら書く)

典介 邪魔ですね。

(ひたすら書く)

町田 はい。

ひたすら書く典介。町田が去り、月が来る。月、典介を見ながらそのまま去り、桑田が来る。

桑田 のりすけさん、昨日はすみませんでした。

(ひたすら書く)

桑田 でもこれまで、こんな私をみんな怖がるばかりで、こんな私に怒鳴つてくれたのはテンスケさんだけで……のりすけ！

典介 はい！ これからもどんどん怒鳴つて叱つてください！ よろしくお願ひします！

ひたすら書く典介。桑田、頭を下げて去り、世々子が来る。

世々子 テンスケ。

典介 (ひたすら書く)

世々子 順調?

典介 (ひたすら書く)

世々子 テンスケがいない間、相談相手いなくて困ったよ。

典介 (ひたすら書く)

世々子 やっぱ同志って大切なって。

ひたすら書く典介。世々子、寂しそうに見る。去る。
世々子、久慈、月、町田、富士子、桑田が典介を見つめている。

富士子 頭、打ったんじゃない?

久慈 あ、俺も思った。溺れてる時に岩か何かで。

富士子 でなきやこんなに性格変わらないでしょ。頭打って健忘症になってしまつたとしたら、色んなことを忘れてても納得できるじゃない?

久慈 あり得る。

町田 じゃ健忘症になつたとして、一ヶ月以上、どこにいたんですか?

富士子 どこかに保護されてたのよ。

町田 そしたら何らかの連絡が入るんじやないですか? SNSだってあるん

ですから、誰かが情報発信して拡散されますよ。

桑田 子供を助けて流されたのはのりすけさんじやないってことはないです

か?

世々子 テンスケがリュックを下ろして川に飛び込むのを見た人が何人もいる。

桑田 別の人が何らかの理由でのりすけさんのリュックを背負つてたとか。

町田 観光客の撮った写真にあのリュックを背負つたテンスケさんが映つてた

んですよ。

そうか……。

町田 でもやっぱり、まずは病院には連れて行つた方がいいと思うんですけど

……。

富士子 無理でしょ、これじや。

間。

久慈 わかった! あれだよ、ほら、よくあるじゃない? 何かの拍子に誰かと

誰かが入れ替わったみたいな。つまり溺れた時に助けた子供と入れ替わつちゃつた。ということは? 元に戻るにはまた溺れるしかない!

久慈さん……。

久慈 冗談だよ。みんな深刻そうにしてるから笑わせようと思つて。ここは笑う

どこ。ははは。

町田 面白くないですよ。

久慈 冗談なんかいらないから。

世々子 深刻な時ほど笑いが必要なの。

富士子 あんたこそ病院に行つた方がいいわよ?
久慈 そうそう、そういう冗談必要！ ははは！

一同、冷たく久慈を見る。

富士子 冗談じゃないから。

世々子、富士子、町田、桑田、下手に去る。

久慈 何？ 冗談も通じなくなつた？ テンスケもおかしいけど、みんなもおかげいいよ？（月に）ね。

月 負のエネルギーは伝染しやすい。

月、去る。

久慈 どういうことよ？

久慈、去る。
典介、ひたすら書いている。

暗転。

【5】

誰もいないホールに町田が上手から来る。手には新聞。

町田 月さーん。

町田、テーブルに伏す。疲れている。月が下手から来る。

月 おはよ。

町田、月に新聞を渡す。月、町田にお金を渡す。
月、新聞を広げて読む。町田、月を見ている。

月 どんな顔して町長するのかなあと思つて。
町田、私の透視能力、信じてる？

月 商売してて今さら何ですか。

町田はどうして形のあるものしか信じない？
だつて目に見えないものや、触ってわからないものってどうやって判断

するんですか？ 存在っていうのは形があつて初めて認められるんです。目に見えるものが行き交うことによって、世の中は成り立つてゐんです。透視は？ 見えないじゃないですか？ 何とでも言えるじゃないですか？

町田。持つて生まれたものは否定できないんだよ。町田のその顔だって、いやだって言ってもその顔が町田でしょ？ それといっしょで、私にもこの能力がくつ付いてる。これが私なんだよ。

この能力がなくて仕事でこれか利かないよ
月さん、町長になるんですよね？

月さん、町長になる

（微かな迷い）うん
だったらもうそういうこと考えなくともいいんじゃないですか？

町田、人間は悩める生き物なんだよ。

悩んでるんですか？

世々子と久慈か下手から来る、

ダメだつて。

書き終えるまでそつとしてあげてよ。

久慈さん、ダメですよ、テンスケさんの邪魔しちゃ。また怒鳴られますよ。
いや、もしあれなら桑つちゃんを俺の部屋にって思つてさ。

そうじゃないんですけど……出るんですね？

(微かな迷い) うん

桑田が上手から来る。

帰りました。

ちょっと散歩に。

隠れ隠れ。

どこかで誰かが、まう、あれ、叫んで暴れた双だ

まあそりですよれ……

今日は元気いいですね。

ここにいや全然わかんないよね。日も当たらないし、風もふかないし、

久慈 桑田 町田 桑田 久慈

桑田 久慈 桑田 久慈 桑田 久慈 桑田

桑田が上手から来る。

23

桑田 雨も雪も関係なし。

世の中、こんなのがんきな人たちがいるんだって、ちょっと驚いてます。あ、悪い意味ではないです。私の周りの人間はみんな上に行く事や、お金を貯めることがばかり考えているので、すごく……はい……。

久慈 まあ、俺たちも入ったばかりの頃はね、焦ってたんだけどね、長い間いるとこんな感じよ。ははは。

富士子 みんな城市に『こんなとこ、長くいるもんじゃないよ。金儲けできるようになつたらさつさと羽ばたきな』って言われて入つたんだけどね、みんな羽ばたかずにずーーーっといるの。

久慈 桑つちゃんもずっといいよ。

月 桑田 月 桑田 月 桑田 バカ言わないの。(桑田に) ねえ、テンスケ、どんな感じ?

久慈 ずっと書いてますね。

桑田 世々子 やっぱり怒つたりする?

桑田 まつたく。

久慈 もしあれだつたら桑つちゃん。俺の部屋に来ない?

桑田 大丈夫です。のりすけさんの中に私という存在はないようですから。ちょっと寂しいくらいです。私は仲良くなりたいんですけど。

世々子 だめよ、邪魔しちゃ。

桑田 わかつてます。

富士子の声 テンスケー。

世々子 え?

富士子の声 テンスケつてばー。

世々子、慌てて下手に去る。

町田 富士子さん、唯一の味方がいなくなつちゃつて必死ですよね。久慈 リョウちゃん話を聞いてくれるのはテンスケだけだったからなあ。

世々子が富士子を連れて下手から来る。

世々子 だめだつて邪魔しちゃ。

富士子 ちょっと話がしたいだけなんだつて。

世々子 そのちょっとがだめなんだつて。

久慈 富士子さん、完成まで待とう、ね。

富士子 今すぐ相談したいの! リョウちゃんのこと――

月 気にかけてほしいだけでしょ?

富士子 は?

月 注目されたいだけ。

久慈 まあまあまあ。(富士子に) 書き終わつたら話聞いてくれるから。

月 完成したら消えちやうかも。

久慈 は?

世々子 どういうこと？

月 テンスケ、見えないの。真っ白。

富士子 あなたねえ、私は真っ黒で、テンスケは真っ白？ 結局何も見えないとことじゃない。

月 もうこの世には存在してない。

月 世々子 どういうこと……。

月 死んでる――

月 世々子・富士子 ちょっと！

久慈 （笑って部屋の方を指差し） いるよ？

月 何かに突き動かされている。

月 町田 月さん、透視じやなくて現実的なところで話しましようよ。

月 テンスケは川に流されてそのまま――

月 世々子 そういうこと気軽に言わないで！

月 世々子 世々子もおかしいって思つてるでしょ。どう見たつて前のテンスケじやない。

月 世々子 だから死んでる？ バカ言わないでよ！ どこから死んでるなんて言葉が出て来るのよ！

月 町田 テンスケの書くつていう念が彼を動かしてる！

月 久慈 だから、溺れてる時に頭打ったんだって。で記憶喪失。辻褄合うじゃない？

月 世々子 海まで流された。だから遺体が見つからない。辻褄合うじゃない。

月 世々子 だからそういうこと気軽に言うなつて！

月 富士子 警察も言つてた！

月 富士子 生きてるんだから遺体あがらないに決まってるじゃない！

月 月 念が残つてここまで戻つて來た！

月 富士子 死んだ人間が戻つて来るか！

月 世々子 テンスケ、いるじゃん！ あの部屋の中にいるじゃん！ それが何で死んでるになるのよ！

典介が下手から来る。

典介 うっせーんだよ！

一同、驚いて典介を見る。

典介 邪魔するなつて言つただろ！ 集中させろよ！ 書けねーだろ！

典介、みんなを睨みつけて、下手に去つて行く。

世々子 いるじゃん……。

月 執念の念、怨念の念、念じるの念。「書く」っていう念だけで戻ってきた。

世々子 もうやめてってそういうの……。

月 見守つて書かせてあげよう。

世々子 は?

月 明日が四十九日。書かせてあげよう。

世々子 何言つてんの……?

月 書いたら念は消える。

世々子 どういう意味……。

月 成仏できる。

世々子 書き上げたら……。

月 消える。

富士子 あんた、どうかしてる。

月 どうかしてたら私もうれしいよ。

少しの間。

桑田 あの……またのりすけさんを怒らせてしまうかもしませんが、聞けばいいんじゃないですか？ 本人に。死んでる？ 生きてる？ って。

久慈 そうだよ……聞けばいいんだよ。ちょっと一つだけ質問させてって。みんな揉めてるからって。そうだよ。（と言しながら下手に行きかけて、足を止める）っていうかさあ。何が問題なの？ 書かないって言ってたテンスケが書き始めた。俺たち、邪魔つて叱られた。それだけのことじゃない？ 「久慈、俺、書けないよ」って騒いでたテンスケが本気で書くようになつた。それだけのことでしょ？ 別に悪いことでも心配することでもないんじゃないの？ 本人言つてたじやん。芝居観たつて。高校時代を思い出して、あの頃の感情が戻つてきたつて。また書きたくなつたつて。それをみんなが邪魔をする。だから怒る。そうだよ、邪魔しなけりやいいんだよ。それより、生きてたことをもつと喜んでやろうよ。生きてたんだから、死んだと思ってた奴が。こんなうれしいこと、ないじゃない？

月、下手に去ろうとする。

世々子 どこ行くの。

月 聞いてくる。

世々子 何を。

生きてるの？ 死んでる――

月 死んでるわけないじゃない！ 何バカ言つてんのよ！

世々子 富士子 月さん、だいたい問題はテンスケじやなくて、あなたなのよ。何で生きている人間を死んだことにしなきやならないの？ 何で私たち、あなたの嘘つぱちに振り回されなきやならないの？ 透視つて言葉を使って、現実

と非現実を「ごっちゃにして、何が楽しいの？」みんなも騙されちゃダメよ！この女は、口にすること全部、透視って隠れ蓑に包んで生きてるんだから。自分の言葉なんて持っちゃいない。いいわよね、それなら無責任に何でも言える。

月 じゃ聞くけど、リョウちゃん、どうした？

月 富士子 は？

月 富士子 ……。

月 富士子 嘘つて？

月 久慈 本当はリョウちゃんとより戻してない。

月 久慈 そうなの？

月 久慈 リョウちゃんなんて過去の人。付き合ってない。

月 富士子 ちゃんと付き合ってるわよ！

月 富士子 結婚も嘘。

月 富士子 嘘じゃないわよ！

月 全部作り話。だいたいあの金食い虫のリョウちゃんが富士子さんにお金ねだるわけない。ただみんなにかまってほしくて――

月 富士子 （月の肩を押して）いい加減にして！

月、倒れる。

月 何すんのよ。（富士子の肩を押す）

富士子、机の上に寄つかかって倒れる。置いてあつた新聞を掴み、それで月を叩く。

月 富士子 嘘ばっかり！ 嘘つき女！

月 富士子 嘘つきはそっちでしょ！

月 富士子 嘘つき！ 嘘つき！

二人、体当たりの喧嘩になる。久慈、止めに入るが反対に二人に攻撃をされる。

久慈 （喧嘩を眺めながら）はあ……もういいよ。やれやれだよ。二人で勝手にどうぞ。

月と富士子、つかみ合いの喧嘩。久慈は椅子に座り、破れた新聞を手に取つて見る。と、思わず椅子から立ち上がる。

久慈 ええっ！

と同時に典介が下手から来る。

典介 うっせーんだよ！

一同、驚いて典介を見る。久慈だけは新聞を見ている。

典介 書けねーだろ！ 書かせろよ！ 書きてーんだよ！ 邪魔すんなよ！
俺は書くために戻って来ただよ！ 書いて、書いて、書いてあともう少
しなんだよ！
これ……

久慈

一同、久慈を見る。町田、久慈の手にしている新聞を見て、

町田 ええっ！
富士子 どうしたの？

典介を残し、一同、久慈の周りに集まり、新聞を見る。

桑田 銀行強盗ですか。田部さちこ。聞いたことのある名前ですね。
世々子 田部ちゃん……嘘……。
富士子 何で銀行強盗なんか……。
町田 久慈さん……。
久慈 僕だ……僕のせいだ……

一同、久慈を見る。

もうすぐ書き終わるんだ。そのまま静かにしてろ。

典介 久慈 テンスケ……。田部ちゃんだぞ？ ここで一緒に暮らしてた田部ちゃん。
覚えてないのかよ。

久慈 覚えてらあ。でも俺は書かなきやなんねーんだよ！ お前らと一緒に悲
しんでる時間はねーんだよ。

典介 久慈 なんだよ、書く書くって！ これまで書かずに逃げてばかりいた奴が偉
そうに言つな！
典介 久慈 偉そうにだろうが何だろうがいいんだよ！ 僕は書く！ 邪魔する奴は
久慈だろうが何だろうが許さねえ！
久慈 僕もお前を許さねーよ！

典介と久慈、掴み合いの喧嘩になる。典介、久慈に馬乗りになる。世々子は
下手に走つて去る。

富士子 テンスケ、やめて！

町田

テンスケさん、久慈さん、死んじやいますよ！

攻撃をやめない典介。町田、桑田、富士子、典介をとめようとする。月が見ている。世々子、下手から戻つて来る。手には原稿用紙。

世々子 テンスケ！

世々子、原稿用紙をビリビリと破る。典介、それに気づき、

典介 やめろ！ ああ！ 僕の芝居が……ああ……僕の芝居が……

典介、破られた原稿用紙を抱いて泣く。

【6】

世々子、久慈、月、町田、富士子、桑田がばらばらに座っている。そして典介がいる。皆の空想が繰り広げられる。

富士子、典介の元へ。

富士子 テンスケ。

典介 富士子ちゃん、どした？

富士子 私ね、みんなにうそついちゃった。リョウちゃんのこと、あれ、うそなの。ちょっとみんなにかまつてほしくて。

典介 おーうそでよかつたよ！ よかつたよかつた。

富士子 でも、みんなを怒らせたのよ？

典介 大丈夫大丈夫。俺がいい具合に言つといてやるよ。みんなすぐ忘れるつて。バカな奴らばかりだから。（ニッとした笑う）

富士子 典介はやっぱり優しいね。

典介 富士子ちゃん。ほら、笑つて笑つて、ララララララ～。

二人、手を取り「ラララ～」と踊る。入れ替わりで月が来る。富士子は戻る。

典介。

月 おう、月。どした？

典介 私、田舎へ帰る。透視やめる。

月 え、なんで？

典介 当たるも八卦、当たらぬも八卦。目に見えるものじゃないから、確信つていうか、証拠つていうか、そういうものないじやない？

自信ねえの？

月 あるつもりだけど……。それでも周りから見ればただの嘘つきなんだよね。当たつてもらわなきや困るし、でもね、当たつてほしくない時もある

典介、町田を抱きしめる。

あ……あつたかい……。
(ギューッと抱きしめて、笑い、離れる) どうだー。

（案外心地よかつたりして。
だろ？ ははは。）

二人笑う。一同、笑う典介を見つめる。町田戻る。

笑っている典介、やがて真顔になり、破れた原稿用紙を抱きしめ、座り込む姿が浮かび上がる。さっきまでの書くという勢いも怒りも消えている。その周りを囲む世々子、久慈、月、町田、富士子、桑田。

久慈 最後まで書けるのかねえ……。
世々子 書けないとどうなる？

月 さまよう。
富士子 まだ言つてる。

世々子 テンスケ、さまようの？

桑田 この日ノ出荘で地縛霊？

町田 いなくなってしまふよりいいかも……。

世々子 最後まで書き上げたら……？

月 消える。

一同、典介を見つめる。

月 書き上げても書けなくとも、あの頃のテンスケは戻つて来ない。

世々子 最悪……。（下手に去る）

久慈 だつたら最後まで書かせてやりたいな。

久慈が下手に去る。それに続き、富士子、町田、桑田、月、下手に去る。世々子が下手から戻つて来る。手には原稿用紙とペンとセロハンテープ。それらをテーブルの上に置く。

世々子、破った原稿用紙を集めて、机の上に置く。

世々子 書いて。
典介 もう書けねえよ。
世々子 だめだよそんな……。
典介 破つといよく言うよ。
世々子 いなくなつてほしくなかつた……。
典介 は？

世々子、破れた原稿用紙を組み合わせてセロハンテープで張り合わせていく。

典介 いつしょだな。

世々子 え?

典介 高校の時と。書きますって言つといて書けなかつた。あの時も破つた原稿用紙を前に何もできずに逃げた。

世々子 今は私がそばで見張つてるから。

典介 ……

世々子 さっきまで書く気満々だつたんじよ。書けるよ。

典介 ……

世々子、セロハンテープで張り合わせていく。

典介 僕……何かあつた?

世々子 え?

典介 思い出せないんだ……

世々子 もうそんなことどうでもいいから。

典介 僕……どうやってここまで帰つて來た?

世々子 もう過ぎたことだから――

典介 でも――

世々子 いいんだってそんなことどうでも!

典介 ……。

世々子 あのね、もう誰も邪魔しない。みんな協力するから書いて。

典介 書けねーつて。こんな状態じや全然書けねーつて。

世々子 典介!

典介 ……いつもそうさ。書きて一氣持ちはあつても途中で逃げてしまう。もう逃げ癖がついてんだな。俺はいつもこうやって中途半端。

世々子 私も一緒だよ。なかなかOK出なくしてリライトばかり。私、この仕事向い

てんのかなあって、もう辞めちゃおうかなーつてしまつちゅう思つてる。

(小さく笑う)

典介 何。

世々子 おまえ、よくゴロゴロ引っ張つてここ歩いてたよな。

典介 ゴロゴロ? ああ。

スーツケースが下手から転がつて出て来る。

典介 「お出かけ?」つて聞いたら「帰る」つて。「どこへ?」つて聞いたら「九

州」つて。「なんで?」つて聞いたら、

世々子 もういい。もう無理。もうここまで。

典介 どした?

世々子 だめだった。全然見向きもしてもらえなかつた。全然面白くないつて。

典介 ほかの会社当たればいいさ。

世々子 才能ないんだよ。やめる。もう書かない。

典介 まあいいけど？

少しの間。

世々子 今度はいけると思ったんだよ！

典介 だつたらその会社に見る目がなかつたんじやねえの？

世々子 世の中みんな見る目がなかつたらどうすればいいのよ！

典介 （笑つて）何弱気になつてんだよ。逃げてちゃだめだめ。

世々子 え？ それ、典介が言う？

典介 は？

世々子 逃げてちゃだめだめ、城市。

典介 あーそれ言うな……。

世々子 いつまで逃げてんのよ！

典介 逃げてるわけじやねえよ。書きて一けど書けねえの。結果逃げるようにな見えるだけ。

世々子 わかった！ 締切だよ、締切があれば書ける！

典介 やめてくれー、そういう縛りは嫌いだ。

世々子 ほら逃げてる、逃げてる逃げる！

典介 逃げてない！

世々子 逃げてるー。

典介 つて、結局いつも俺がなじられ、なぜかお前は満足して部屋に戻つて行く。

世々子、スーツケースを下手中に転がし、スーツケースは下手中に消えていく。
二人、スーツケースを見送る。

典介 お前、いつまでここにいんだよ。

世々子 ……

典介 もうここを出てもやつてけんじやねえの？ こんな変な奴らばかりいる

所で書くより、ちゃんとした環境で書いた方がいい作品書けんじやねえ
の？

世々子 出でけつて言うの？（月、久慈、町田、富士子、桑田がのぞいて見ている）

典介 勝負してみろつて言つてんだよ。俺なんかよりよっぽど書けるのにもつ
たいないだろ。

世々子 そんなことないよ……。

典介 あるよ。みすみす可能性潰すなよ。（月が下手中に出て来て、二人の話を聞

く）

世々子 じゃ私も頑張るから、テンスケも頑張ろ。

典介 ……

世々子

高校の時に見た風景を見たって言ってたじやない？

典介

ああ、突然、城市の「テンスケ！」って声が聞こえてきて、あの体育館での公演が現れて……。何だつたんだ、あれ……。

世々子

…

典介、世々子、黙り込む。

月 城市だ。

久慈
は？

月 城市だったんだ……。城市を呼んで。

月 町田
城市？

月 早く。

久慈、そつと二人の後ろを横切って上手へと去る。
と走つて戻つて来て、月たちの元へ。

久慈
富士子
久慈
月
月

来た。
誰が。
城市。
念だよ。念がやつて來た。

城市が上手から来る。

城市！
典介！

城市！
あんた、生きてたのかい！

俺、死んでたのか？

こつちが聞きたいよ。

俺、何も覚えてなくて……ただ書きたくて……

書きたくて？

やつと書く気になつたんだね？

でも俺、もしかしたら死んでるのかも——

あー、そんなことどうでもいいんだよ。

戻つて來たんだ。

いいのかよ？

ごめんなさい！

ああ、生きてようが死んでようが書きさえすればいいんだよ。だって書くために戻つて來たんだろ？

でも、俺また逃げ出すかも——

はあ？

典介、部屋に戻ろうとするが、そこには世々子、久慈、久慈、月、町田、富士子、桑田がいる。
城市、破れた原稿用紙を読んでいる。

世々子 ちよ、典介！ 逃げちゃダメだよ！
典介 うっせー！ 放つとけ！

下手に入ろうとする典介をみんなで止める。

典介 部屋に戻る！
桑田 私の部屋です。

典介 僕の部屋だよ！

桑田 お金は私が払ってます。

典介 うるさい！

月 テンスケ！

月 呼んでるよ。

月 聞こえねー。

月 富士子 何ばか言つてんのよ！

月 城市 テンスケ！

月 世々子 ほら。

月 町田 はーい。

月 典介 お前！

月 町田 今行きます！

久慈 （城市的所へ行き）少々お待ちを。（戻る）時間かせいどいたぞ！

典介 なんなんだよ、おまえら。

世々子 なんなんだよ？ 知りたい？

久慈 言つてやれ。
世々子 私たちは、日ノ出荘で、ここで、あんたとずっと一緒に暮らしてきた面々

だよ。言つとくけど、あんたの芝居の本、待つてるのは城市だけじゃない

からね！ 私たちもだからね！

…

久慈 行つてこい！（肩を叩く）

町田 呼んでますよ。
城市 テンスケ！

典介、城市の元へ。

城市 テンスケ、いいんじゃない？
城市 もう、マジで？
城市 めちゃめちゃだけだね。
城市 めちゃめちゃじやねえだろ！

いいんだよ、めちゃめちゃでも、魂がこもってりや。いいかい、この一つのセリフはあなたが書く瞬間瞬間に出会う一期一会のセリフだよ。

いちごいちはって、何？

忘れたんかい！ いつきいつかって書くんだったろ。

ああ、いつきいつかい。

典介。魂で書きな。ぼろでも情けなくともいいから最後まで書きな。嵐が来ようが、槍が降ろうが、天地がひっくり返ろうが、この世とおさらばしようが、とにかく最後まで書く。そしたらそこに行つたら行つたで、また新しい何かが待ってるよ。

書く。

できたら持つて来な。

書く。

典介、世々子が持つて来た原稿用紙にものすごい勢いで書き始める。今度は逃げ出すんじゃないよ。逃げても、わたしやとこどん追いかけるからね。

書く。いつきいつかいで書く！

典介、世々子が持つて来た原稿用紙にものすごい勢いで書き始める。

城市、その姿を見て微笑み、上手に去る。

世々子、久慈、月、町田、富士子、桑田、典介の書く姿を見る。

典介、原稿用紙を離れ、舞台中の空間に向けてペンを走らせ始める。と、高校の巡回公演の明かりとなる。

典介

すげえー！ すげえー！ なんかすげえー！ はははは！ 僕、書くわ。俺の世界を書くわ！ 書いて、書いて、前に進む！ 謹めねえ！ 下手でもなんでも、ぼろでも情けなくとも書いてみせる。書いてみせつから！

書く、魂で書く！ いつきいつかいで書く！

典介、空間に向けてペンを走らす。書いて書いて書いて。

そんな典介を見つめる一同。その中で典介の姿が浮き立つ。

典介、書いて書いて書いて、そして筆を置く。原稿用紙を持ち上げ、天に叫ぶ。

典介
わ——————っ！

一瞬にして舞台は真っ暗に。

世々子 テンスケ！

明かりが戻ると、典介は笑顔で飛び跳ねながら踊るように、みんなの間をすり抜け、消えていく。その姿は世々子たちには見えていない。テーブルの上には書き上げた原稿用紙。

世々子 典介？

一同、典介の名を呼びながら探しに散らばる。

世々子 消えちゃった……。よかつたんだよね……。（月を見る）

月、寂しそうにうなづく。

世々子 よかつたんだよね……。

溶暗。

【7】

テーブルに世々子。月は電話をしている。

月 念。執念の念。怨念の念。念じるの念。念が渦巻いているんです。ええ、生きてます。……生靈ですね。ええ……ええ……（と続く）

町田が新聞を持って入って来る。

世々子 お帰り。

町田 生靈です。間違いなく生靈です。

世々子 相変わらず疲れてるね。

町田 人が寝ている時に働いてますから。

富士子が部屋から出て来る。追いかけて久慈。

久慈 やめときなつて。

富士子 どうして？

久慈 どうしてって聞く？

富士子 聞くわよ。意味わかんないわよ。

世々子 どした？

久慈 いや富士子さんがさあ、

富士子 今からデートなの。

世々子 今度はどんな人？

富士子 ちょっとね、典介に似てるの。

久慈 似ても典介じゃないからね？

富士子 わかってるわよ！

月 もしかしたらだけ……。

世々子 何?

月 テンスケが戻つて来させた念はテンスケの念じゃなくて、城市的の念かも
ね。

久慈 は?

町田 生靈?

月 おそらく。もっと早く気づくべきだった。私も勉強不足ね。完全なる透視
能力者を目指して勉強するわ。がんばるわ。

久慈 がんばるわって……。

町田 あのですねえ、月さん。世の中は形あるものの集まりですから。目に見え
ないものは存在しないと同然でーー。

典介の声 ただいまー!

一同 え?

一同、上手を見る。

典介の声 やつと着いたー。

と、典介が上手から入つて来る寸前で明かりが落ちる。

了